

団体の概要 (NGO/NPO用)

団体名 NPO 法人 伝統の漆器普及協会 WISDOM JAPAN

所在地	〒464 -0850 名古屋市千種区今池 1 丁目 4 - 4 D0 LIFE 千種 2 F TEL:052-741-7227 FAX:052-732-3366 E-mail:wisdom_japan.yahoo.co.jp		
ホームページ			
設立年月	平成 16 年 2 月 *認証年月日 (法人団体のみ) 2004 年 6 月 10 日		
代表者	高橋 操	担当者	高橋 道子
組 織	スタッフ 3 名 (内 専従 2 名) 個人会員 25 名 法人会員 名 その他会員 (賛助会員等) 22 名		
設立の経緯	1983 年「光悦塾・光琳会」(真の漆器の使い方生かし方を学ぶ会)を創設主として消費者を対象に講演会や、漆器使用体験イベントを繰り返し開催。消費者の、漆器使用実態調査を進めるうちに、実用性の高い漆器ほど敬遠されている現状に疑問を持ち、その原因を追究するため漆器の使用研究、調査を繰り返す。伝統の漆器使用文化は環境面、文化面に貢献できる文化であると確信し昨年 NPO 法人を設立。現在に至る。		
団体の目的	この法人は全ての市民に対して、日本伝統工芸「漆器」に関する正確な情報(真の漆器は大変丈夫で機能性が高く、使うほどに美しく育つ芸術性の高い完全循環型の優れた実用品であること)を提供し、一人でも多くの人々が、毎日楽しく真の漆器を活用できるように、体験学習を含むセミナー、講演等を主とした普及活動を行い、日本伝統文化の伝承と保存と共に、年齢を問わない持続可能な環境教育、循環型社会への転換、経済の発展、高齢者対象の福祉活動など幅広く社会に貢献する事を目的とする。		
団体の活動プロフィール	平成 15 年 11 月 講演会 京都国立博物館 11 月 漆器体験セミナー 平成 16 年 8 月 漆器体験セミナー 9 月 〃 8 月 会員研修セミナー (輪島) 11 月 漆器体験喫茶開設指導 オープン 平成 17 年 1 月 講演会 名古屋市博物館 2 月 講演会 〃		

活動事業費 (平成16年度) 約200,000円

政策のテーマ 愛知から自然の叡智 WISDOM JAPAN(漆)の環境ライフスタイル発信

■政策の分野

- ・循環型社会の構築 ・環境教育
- ・社会経済のグリーン化

■政策の手段

- ・制度整備」・施設等整備・調査研究,技術開発,技術革新・環境教育・学習の推進・人材育成
- ・地域活性化と雇用・情報管理,情報の開示と提供

団体名：NPO 法人伝統の漆器普及協会

WISDOM JAPAN

担当者名：高橋 道子

① 政策の目的

地球と人に安全、塗り直して千年使用可能な[伝統の漆器]を使う生活文化を普及することにより、全国民が毎日の暮らしの中で、自然の恵みに対する感謝と感動から環境意識を高め、環境型ライフスタイルの推進に繋ぐ。更に[伝統の漆器]の需要拡大により、環境型産業の発展、高齢者や障害者を含む雇用の促進を図り、環境と経済の好循環を生み出す

② 背景および現状の問題点

- ・ 環境型漆器(原材料植物、修理して千年使用可能)と消費型漆器(原材料石油系含む、使い捨て)が製造、販売において、明確に区別されていない。両者は耐久性、取り扱い方も全く異なるが、消費者に対してその説明、アドバイスをできる専門家がいなため、[伝統の漆器]が高度な環境製品という理解がほとんどされていない。一般市民は本当の漆器に対して恐怖心を持ち、現在所持している漆器さえ使用せず、死蔵又は廃棄されていることが多い。ゆえに良い漆器ほど、非合理的な使いにくい物と云われ、伝統の漆器産業は衰退を続け、離職者が続出している。又製造法も、伝統技法が形式的に伝承され、本質的な耐久性等の研究がおろそかになっている部分がある。漆器の扱い方も、漆本来の長所を引き出す使用法が統一されておらず、何十年も美しい状態で使用できるはずの環境型漆器が、10年足らずで劣化して、廃棄されていることも多い。・・・日本の伝統文化財の喪失
- ・ まだまだ一般市民の環境問題意識は低く、消費動向や食生活においては環境保全と逆行している事も多々ある(利便性追求)=非環境型ライフスタイル

③ 政策の概要

- 消費者、販売者、生産者のための国営漆器研修総合センターの創設
[レストランスタイル・総合漆器体験&トレーニングセンター]
現在衰退の原因になっている[漆器の誤情報]を正し、正確な情報の元に、実際に食事等で伝統の漆器の使用体験をしながら、使用法、活用法を学ぶ。
[製造法などの情報の交換と共有の漆芸技術研修センター]
伝統技術を礎に、より漆の特性を活かした実用性、耐久性の高い漆器製造法を追及し、全国に情報を発信。技術を継承する。技術者の育成
- 小中学校の環境学習教材として使用
例えば、小学校入学と同時に漆椀を個々に配布し、卒業まで自己管理(毎日使って、自分で洗って保管)する。卒業時に記念品として授与される。自然の恵みのすばらしさを体感する。良い道具を長く使い育てる体験。伝統工芸、伝統文化から学ぶ環境保全精神
- 環境型漆器と消費型漆器の品質表示制度の改正
原材料、製造法、耐久性等で一定の基準を満たす漆器に限り、環境型漆器として消費者に提示。環境型漆器=グリーン購入の推進製品という情報を発信
- 漆器専門アドバイザーの資格制度 漆器売場に配置
漆器の正しい知識、判別、扱い方、活かし方がアドバイスできる販売者を育成し、全国共通の正しい漆器情報が、消費者に発信されるようにする。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

行政による制度確立

環境型漆器と消費型漆器
の品質表示義務

正しい漆器情報の発信
全国統一化



国営又は自治体運営

漆器研修総合センター

漆芸技術研修センター

消費者・販売者・製造者の育成



企業

・漆器及びその他の伝統工芸品販売
・漆器体験型飲食店

グリーン購入推進・エコビジネス促進

文部科学省

環境学習・環境教育
学校での漆器使用体験

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があれば書きください）

- ・漆器共同組合（輪島・越前・山中…）
- ・製漆業者
- ・漆器製造業者
- ・漆器販売業者
- ・日本漆工協会

⑥ 政策の実施により期待される効果

[美しい自然環境・安全で美味しい食・豊かな心]この3つの一つが欠けても平和な暮らしは成り立たず、この3つが整ってはじめて、人々は本当に環境意識が高まっていくのだと思う。そしてそれは、毎日の生活の中で、日常的な行動、行為から育まなければならないと思う。老若男女を問わず全ての人々が、毎日行う行為、それは食事である。生命の源である食事で、本当に自然を感じられる美味しい食事ができた時、人は感動し、感謝する。自然に対する感動、喜びを体験しなければ、いくら環境保全の知識を詰め込んでも、自然を心から大切に思うことはできないと思う。

漆の特性を最大限に活かして作られた環境型の漆器は、使うほどに美しく光り輝き、中に入る食べ物をより一層美しく見せ、美味しくする効果がある。特に純粋な子どもたちほど、その自然の美しさ、すばらしさに感動する。そして100回、1000回、10000回と使用を重ねるごとに、美しさが増していく。それは子どもが生き生きと育って輝くように。

- ・環境型の漆器を使う文化を普及することは、自然の感性を高め、自然にとって安全な物を選別する能力が高められ、自然を敬う心が育まれる。＝環境教育
- ・使い捨て型→グリーン購入推進　ごみ減少
- ・製造から使用廃棄まで、ほぼ安全無害。ほとんど熱エネルギーを使用しない。温暖化防止
- ・原材料がほぼ植物＝無限資源　地産地消日本国内の里地里山の活性化
- ・環境型産業の活性化＝好循環
- ・製造から使用までほとんど手作業のため、製造現場、使用現場にて高齢者や、障害者を含む雇用の促進
- ・他の日本伝統工芸品の需要促進→産業発展

⑦ その他・特記事項